

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

アユミは、人懐っこい子ではありましたが、物怖じがちな子でもありました。
高校を卒業する前後だったでしょうか、進路についての相談を受けることができました。
行きたい大学はあるけど、別の大学をすすめられていると。
悩んだ挙げ句、別の大学に行きながら、翌年再チャレンジしてみようということになりました。ただし、周りの誰にも明かさずに。
大学の勉強をしながら受験勉強をするというのは、なかなか大変だったと思いますが、翌年アユミは両親を説得し、受験。大願成就を果たします。

Q. 中学生当時、「全体学習（みんなで語り合う人権学習）」をどう感じていたか？

私は愚痴は言うけど、人の悪口は極力言いたくないし、誰かをのけ者にしたくない。
当時から、人に対して「嫌い」という感情はなかったけど、全体学習を通して、「好き・嫌い」関係なく、人の生き方、バックグラウンドを理解しようとするようになった。

大学時代に一度、近くまで行く機会があったので、会って話をしたことがありました。
すると、大学でできた仲間と共に、生活の厳しい子どもへの支援をしたり、町の活性化のために自転車を自由に借りて乗れる、「HUBチャリ」に取り組んだりしていると、町を案内してくれました。そんなアユミは、いきいきと輝いていました。

Q. 十数年経った今、全体学習（みんなで語り合う人権学習）をどう思っているか？

分かり合えない子でも、何回も話せば分かってくれるだろうという自信があるし、へこたれないのは当時の先生方の影響だと思う。そんな経験は、今の自分のしたい仕事につながっている。

それから数年がたった、ある日曜日。私がひと気のない大学の図書館に行くと、仕切り板の向こうから顔を出したのが、アユミでした。ビックリして互いに声をかけ合ったあと、外に出て少し話をしました。
今は大学を卒業し、会計事務所で仕事をしながら、自分のしたい仕事への起業の準備をしていると。その仕事、塾だということです。アユミは、変わらない夢を、ずっと追いかけていました。

誰かと誰か、自分が分かり合えた瞬間とかに出会って、分かり合えるということに感動したし、つらさも分かち合えることがあるんだと思った。
まとめると、自分の経験でも、中学生に関わる中で、話し合いはやっぱり必要だと思う。
みんな人とのつながりを求めているように思う。

今、彼女は、若いながら塾の経営者として、悩みつつも日々奮闘しているようです。
彼女は、この学習に出会う前から、「人が好きな子」だったのかもしれません。それは、家族の愛情をたっぷり受けてきた結果ともいえます。
でもそれだけでなく、彼女の中に明確に在るのは、「話し合いはやっぱり必要だ」ということです。
自分の育ちや性格の上に、「具体的な対話の体験」が積み重なることで、それはより説得力をもって、自分の中の芯となっていくのではないかと思います。
そんな塾は、学力一辺倒の塾とは、どこかひと味違うかもしれません。
そんな塾なら、私も行ってみたいと思います。

みんなで語り合う人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおブランチ代表